4-8

「施設環境づくり共同実践研究プロジェクト2005」に参加して（仮）

くつろげる場所づくり（仮）

施設環境

特別養護老人ホーム 信愛の園

生活相談員 小野貴志

介護職員 大村智子

東京都清瀬市梅園2-3-15

介護職員 国田光夫

042-492-1551

E-mail soudan-shinai@gol.com

042-494-1904

URL <http://www.shin-ai.or.jp/sono/>

今回の発表の施設
またはサービスの
概要 10p

社会福祉法人信愛報恩会が母体である信愛の園は現在、ショートステイを含め 196 名の特養です。敷地内には他に同法人の病院、訪問看護、デイサービス、在宅支援センター、訪問介護などがあります。

〈取り組んだ課題〉

当園は、特養 182、ショート 14 の 196 床が 4 フロアに分かれています。1 フロア 50 名前後の大規模な施設です。平成 12 年度から今の建物を使っていますが、約 30 年親しんだ旧館からの引越し後、新しい環境を活用しきれていない面もありました。そんな折、施設環境づくりに出会い、平成 17 年度は手始めに「重度の認知症の利用者」で取り組むことになりました。その過程で今まで、利用者の安全や身体介助などを優先した介護をしていたことに気づきました。

〈具体的な取り組み〉

- 4月・・・児玉教授を招いての施設内勉強会開催
- 5月・・・介護会で施設内勉強会後の伝達
大学にて、参加他施設との合同ワークショップにコアメンバー参加
係員全員で課題の抽出（写真を使っ
てのキャプション評価法）
- 6～11月・・・現状評価、環境づくり計画の立案
- 8月・・・大学にて、中間発表会に参加
- 10月・・・日本認知症ケア学会「認知症高齢者への施設環境づくりセミナー2005」にて、ポスター発表。
- 11月・・・家族懇談会にて報告。
- 11～2月・・・環境をつくる、新しい環境をいかす、環境づくりを振り返る
- 2月・・・大学にて、まとめの報告会に参加
- 3月・・・介護会にて報告

〈活動の成果と評価〉

「くつろげる場所」とは何か。これを具体化するために数多くの意見を交換する中でイメージを膨らませました。この中で共通して浮かんだことが、施設では椅子の生活がほとんどであるので、靴を脱いで過ごすことが出来る場所が欲しい、畳スペースを作ろうということでした。幸いにもダイルームは床の素材が柔らかく、床暖房もあります。大きさについては、くつろぐにはある程度の「狭さ」が必要であろうと、4畳半程度とし、畳の周りにはソファを置くこととしました。ソファに座るばかりでなく、畳に足を伸ばしてソファにもたれることもくつろげる姿勢だと、試中で気がつきました。しかし、大筋は決まったものの、果たして「くつろげる場所」になるのかどうか迷いがありました。この場面では、共同実践研究の名の下、大いに大学に頼りました。ポイントは、畳とアルミサッシが接する辺を収納ボックスで囲うことでした。これにより、サッシの寒々しさが隠れ、収納の他にも背もたれや立ち上がる時に手を掛ける場所としても機能を発揮できることが分かりました。頭で考えるだけでなく、実際に体を動かすことで分かったことでした。畳は備品としてホームにあったもので、バザー品やいただいたソファを使って極力費用は抑えています。ダイルームの死角になる場所には、ソファを置いて家族が面会のときに利用できるようにもしました。

〈今後の課題〉

一部のフロアでの取り組みだったものをいかに全フロアに波及させるか。

〈参考資料など〉

- 「認知症高齢者への環境支援のための指針」PEAP 日本版3・・・2002-2004 ケアと環境研究会
- 「認知症高齢者への環境支援指針(PEAP)を用いた施設環境づくり実践ハンドブック」・・・日本社会事業大学 児玉研究室